

シグネット（東京事務 7003、http://www.sig-net.co.jp）は、所 03・5919・0

シグネット

直下地震対応の検知器「直下くん」開発 震源の真上でも「命を守り、被害を最小化」

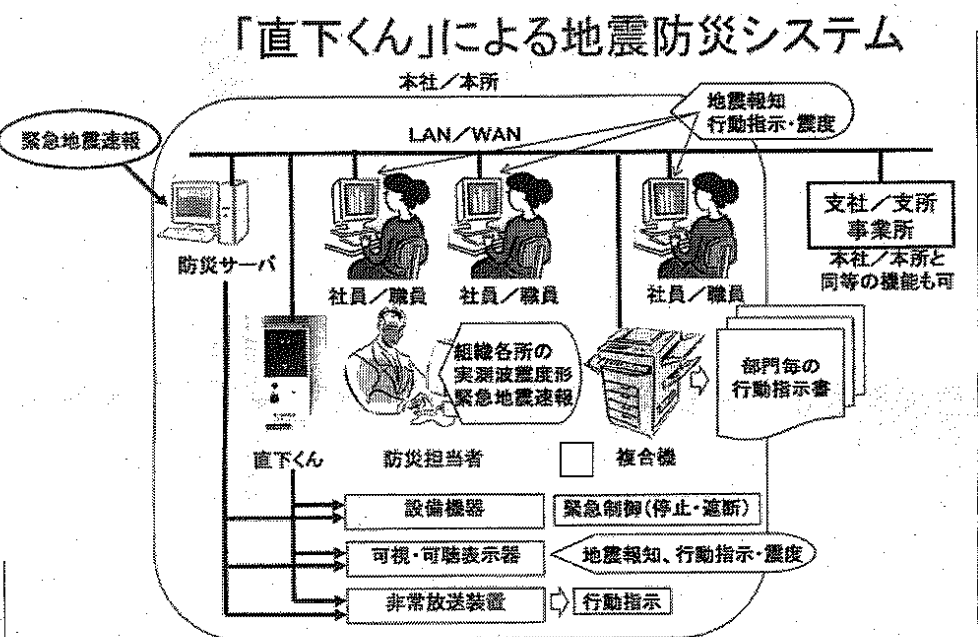
直下地震の発生を1秒以内を検知する直下地震検知器「直下くん」を開発した。

国内で発生する大地震は海溝型地震と、内陸部の直下地震に大別できる。直下地震は近年、首都圏や近畿圏の人口密集地での発生が懸念されており、先に運用を開始した緊急地震速報は、被害の集中する震央周辺では間に合わない。「直下くん」は、緊急地震速報の弱点を補完すべく開発した3軸加速度センサ内蔵の地震計で、その場所の揺れの強さをリアルタイム震度に変換して出力すると共に、検出した地震が直下の大地震になるかを1秒以内に判断する。設置は建物などの柱耐力壁などにボルトで固定し、電源を入れれば動作する。通信回線や他からの情報を一切必要としない自律型システムで、運用費が掛からないことが特長。各種地震のリアルタイム震度から求めた「判定基準」により、極めて短時間に直下大地震の検知が可能となった。直下の大地震では、P波が到達するまでの時間を短くする。また「直下くん」は危険のない小さな地震や地震以外の地盤振動で誤作動しにくいことも特長。「直下くん」が大地震を検知すると、最大震度を表示し、内蔵ブザーが鳴動すると共に、

接点信号出力により、エレベーターなどの設備機器の緊急停止や構内の可視・可聴表示器を通して地震発生を一斉に報知する。

長周期地震検知機能（オプション）を用いれば小振幅の長周期地震動（周期10秒、片振幅1cm）が検知でき、超高層ビルや大型石油タンク等の長周期地震防災に使用できる。LAN接続オプションも可能。

溝上恵・東京大学名誉教授・地震防災対策強化地域判定会前会長は「波形解析や震度予測ソフトの速報性は最高レベルと評価できる。緊急地震速報との併用も可能で、住宅、事務所、工場、医療現場、厨房、防災機関やインフラ関係など幅広い用途での活用が期待できる。」と絶賛。同社は今後、全国ネットで発売する計画。全国販売に乗り出す計画。



既存OAシステムと「直下くん」、防災サーバ、緊急地震速報等でシステムを構築
地震発生時には各種情報や緊急制御で「命を守り、被害を最小化」する